

学校運営連絡協議会

A 学校運営連絡協議会設置要綱

第1 (名称)

この会の名称を「都立南葛飾高等学校定時制課程 学校運営連絡協議会」(以下、「協議会」という。)とする。

第2 (目的)

本校の教育活動が、保護者や地域住民に理解され、かつ、本校の学校運営に保護者及び地域社会の方々の意向が反映され、本校が地域に根ざしてより発展していくための学校支援組織とすることを目的とする。

第3 (所掌事項)

協議会は、学校運営に関する意見交換、教育活動の観察並びに学校評価等を通して協議を行い、校長に対して本校の学校運営、教育活動及び家庭や地域社会との連携について助言する。

第4 (組織)

協議会の委員は、校長の他、次のとおりとする。

協議委員は、校長が推薦し、都教育委員会が委嘱する保護者代表1名(卒業生保護者も含む)、同窓会代表1名、人権尊重教育に造詣の深い有識者2名の計4名とする。

内部委員は、副校長、経営企画課(室)長、主幹教諭、分掌主任のうち校長の指名する者の計3名とする。

2 協議会の中に学校評価委員会(以下、「評価委員会」という。)を置く。評価委員会は、協議会が行う外部評価を計画、立案、実施並びに集計し、学校評価報告書原案を作成する。

評価委員会の委員は、協議会委員の中から校長が委嘱する。

第5 (任期)

委員の任期は、原則として当該年度の4月1日から3月31日までとする。

第6 (役員)

協議会に、次の役員を置く。

会長1名、副会長1名、評価委員会委員長1名、事務局長1名

2 会長は、校長とする。

3 副会長、評価委員会委員長及び事務局長は、校長が選任する。

第7 (協議会の開催回数及び開催時期)

協議会は、5月、10月及び2月の年3回開催する。

第8 (協議会の公開)

協議会は、原則として公開とする。ただし、会長が必要とする場合には、会長の判断により非公開とすることができる。

第9 (事務局)

都立南葛飾高等学校に協議会事務局を置く。事務局に事務局長を置き、教務主任をもって充てる。

第10 (その他)

この要綱は、校長が必要に応じて改正する。

(附則)

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

(附則)

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

(附則)

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

(附則)

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

(附則)

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

B 令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立南葛飾高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 = 経営企画室主事、教務部員1名（教務主任、書記兼務） 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（生徒保健担当） 計4名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
韓日経済文化交流協会会長 1名
部落解放同盟東京都連盟 執行委員兼葛飾支部書記長 1名
南定会（卒業生の会）会長 1名
親の会（卒業生保護者の会）代表 1名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の開催

- 第1回 令和3年 6月16日（水）（書面開催）内部委員4名、協議委員4名、書記1名
資料送付 ①次第 ②協議委員名簿・内部委員 ③令和2年度学校経営報告
④令和3年度学校経営計画 ⑤令和3年度年間行事計画 ⑥第2回のご案内、他
- 第2回 令和3年10月20日（水）内部委員3名、協議委員2名、書記1名
校長挨拶、自己紹介、各内部委員より学校運営の現状について報告
学校評価の基本方針と評価方法についてご依頼、意見交換
協議：学校評価アンケート（案）
- 第3回 令和4年 2月16日（水）（書面開催）内部委員4名、協議委員4名、書記1名
校長挨拶、協議：学校評価アンケートの結果報告、次年度に向けた南葛飾定の取組み

(2) 評価委員会の開催

- 第1回 令和3年 6月16日（水）書面開催の為、開けず
- 第2回 令和3年10月20日（水）内部委員4名、協議委員2名
昨年度実施の問題点・改善点、今年度の学校評価の実施に向けた検討
学校評価アンケートの作成・検討、調査方法、方法確認、結果の分析・検討、報告について

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | | | |
|------------|---------|---------|------------|
| ・12月 全校生徒 | 対象：150人 | 回収：111人 | 回収率：74.0% |
| ・12月 保護者全員 | 対象：150人 | 回収：21人 | 回収率：14.0% |
| ・12月 協議委員 | 対象：4人 | 回収：4人 | 回収率：100.0% |
| ・12月 教職員 | 対象：13人 | 回収：13人 | 回収率：100.0% |

(3) 主な評価項目

- ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備・いじめ・学校対応などの評価項目を集約し、学校実態に合わせて適宜設定する。

(4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）

アンケートの集計より、評価が低い項目や気になる質問に絞り、改善点をさぐる。

【学運協協議委員の集計より】

③ 本校は保護者や地域社会の意見を積極的に聞こうとしていますか。④ 学習活動、学校行事、部活動等で特色ある教育活動が行われていると思いますか。⑨ 生徒の個性を伸ばし進路実現に結びつく、社会の動きに対応した教育活動だと思いませんか。⑭ 本校の進路指導は、学校の指導方針が明確に示され保護者との連携が図られていますか。⑯ 相談機能が充実し、生徒一人ひとりを大切にされた進路指導を行っていると思いますか。進路希望の実現は、教員側でも課題と感じている。昨年度に引き続き、生徒と地域の結びつきについては大きな課題と言える。日頃より喫煙やゴミの散らかし、騒音等の苦情が多く、課題の1つである。

【生徒の集計より】

生徒へのアンケートは自由記述も多いので、個々を読んでいくと生徒の気持ちがなんとなく伝わってくる記述も少なくない。そんな中で特に評価の低い項目を挙げてみる。

① 学校の教育目標を知っていますか。⑤ 本校での生活は、自分の将来にとって有益だと思いませんか。

⑰ 本校の行事や部活動は活発で、楽しいと思いませんか。

教育目標を知らないと応える生徒が多いのは致し方ない面もあるが、少しずつでも理解させていきたい。昨年よりのコロナ禍の影響が如実に結果に表れている、と言わざるを得ないと強く感ずる。また授業への真剣

な取り組み意欲がやや低いのも気になる。将来を見据えた視点が育って欲しい。自分の将来についての質問においても、低い結果が見て取れるのが残念。授業への意欲を何とか喚起したい。

【教員の集計より】

例年と大きな変化は見られず、日常的に生徒との関わりを基に生徒理解を進めており、全般的に生徒に対して好意的捉えている傾向がみられる。やはり、評価の低い項目を挙げてみる。

③ 日常の教育活動に地域社会の意見や要望が取り入れられていますか。⑤ 生徒にとって本校の生活が充実し、自分の将来にとって有益であると感じていますか。⑬ 部活動や生徒会活動は活発ですか。⑱ ホームルーム活動は活発で、クラス全体で関わられるよう指導していますか。

これはまさにコロナ感染の影響が継続している為の、教育活動への結果と捉えている。生徒会活動においても、未だ行事等は縮小傾向にあり、活躍する場面が無くなってしまった。

【保護者の集計より】

150家庭の保護者を対象に、例年全家庭に向けて保護者へアンケート用紙を配布するが、21名の保護者から返答あり、昨年度より回答数が微増した。例年何とか1割以上の回収を目指していたが、今年度やっと達成出来た。その中で評価の低い項目はやはり次の2つである。

⑧ 教員が仕事と家庭生活を両立させる「ライフワークバランス」の実現に取り組んでいるのを知っているか。

⑭ 本校の進路指導は学校の指導方針が明確に示され、保護者との連携が図られていますか。

学校としては取り組んでいるが、やはり外部からは見え難く感じた。今後とも継続努力する必要性を痛感した。保護者からも見えづらく、進路指導の見える化を図っていききたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・今年度の成果（学年が上がるごとに、高校の卒業資格取得が本校へ通う目的）が明確となった。
- ・来年度の課題（次年度以降も一人ひとり個別の指導を丁寧に行っていくこと）が明確となった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・南葛飾高校に対する関心があり、近隣の住民からは見守られている。
- ・保護者等と連携を図った形での進路指導が求められている、生活指導を継続指導していくこと。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・地域より愛され、必要とされる存在感のある学校を目指す。
- ・日常の授業での充実、生徒端末の導入。生徒・保護者を通して学校から情報発信をする。

(2) 学習指導

- ・基礎基本の徹底を図った授業充実、端末導入の年間計画を立て、教育の授業力を高める。
- ・校内美化を進め、学習環境を整えて、生徒の学力を向上させる。

(3) 特別活動

- ・コロナ対策の充実の上、放課後の部活動時間を確保・活用し、部活動の活発化、活性化を図る。

(4) 生活指導

- ・日常の出欠指導を徹底し、家庭訪問等継続し、家庭連携の緊密に図り実行していく。
- ・折に触れスマホ等指導し、モラルの向上を図りルールを守ることを身に付けさせる。

(5) 進路指導

- ・個別相談を主に相談体制を築き、キャリア教育の充実へ取り組みを図る。
- ・本人と保護者と学校の三者が緊密に連携し、希望する進路を目指す指導を図る。

(6) 健康・安全

- ・基本的生活習慣の定着を図る。
- ・担任を中心に面談の機会を多く作り、定期的に生徒との意思疎通や情報を共有を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 (1) 協議委員人数 4人

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
	4					

7 その他

- 今年度思い切って質問項目を精査した。経年変化も含め、より具体的な要望を捉え学校改善に取り組みたい。